

ボツワナ事務所からひとこと

ボツワナはアフリカの中では比較的裕福な国ですが、都市部と地方の経済格差が大きく、地方には十分な仕事がありません。そのためボツワナ政府は、地域住民の雇用創出と所得向上を目的とした個人起業家の育成に取り組んでいます。金田さんは、地元の人たちの目線に立って、誰でも使いやすい家計簿を導入するために熱心に活動していました。



企画調査員* (ボランティア事業)
高木 哲也 (たかき・つや)

* 隊員の活動全般を支援する「ボランティア事業支援のプロ」。また相手国の要望を調査して要請開拓を行うなど、隊員活動全体の運営を担う。

+one information

野生動物の町、カサネ

私が活動期間中に住んでいたカサネはボツワナの最北端に位置し、ナミビア、ザンビア、ジンバブエの3国との国境に近い大自然に囲まれた小さな町です。ボツワナではさまざまな場所で野生動物の観察を行うサファリを楽しむことができますが、そのなかでも最大級の規模を誇るチョベ国立公園は、カサネが玄関口となっています。

人が暮らす地域とサファリエリアを隔てるものが何もないので、町なかだけでなく、家の敷地にもイボイノシシやヒヒ、マングースなどが入ってくることもあり、その様子はまるで多種多様な動物が集まる庭のようでした。そうした環境だったため、わざわざお金を払ってサファリを体験しに行くのではなく、無料のサファリを日常的に楽しむことができました。

しかし、間近に野生動物を見られるのはよい面ばかりではなく、脅威になることもあります。カサネを含む周辺のいくつかの村では、滞在した約半年間でゾウ、ワニ、バッファロー、ライオンによって人命が失われ、早朝と夜間の外出を控える必要がありました。

また、カサネの町はサファリエリアとチョベ川（個人的に“チョベリバ=Chobe river”と呼んでいます）の間に位置し、夜になると水を求めてアフリカゾウが町を横切って川に向かうため、日本では考えられない、信号待ちならぬ“ゾウ待ち”という状況に何度も遭いました。チョベ地区に生息するカラハリゾウは、地球上で最も大きなゾウといわれています。夕暮れのかな、眼前をゆっくりと通り過ぎるカラハリゾウの姿はあまりにも圧巻——今目に焼きついています。



イラスト ● さかがわ成美



お金の管理が
しやすい!

起業家の住民に家計簿の書き方を教える金田さん。定期的にモニタリングを行い、家計簿自体も使いやすい形に改良していった。



ケータリング事業を新たに始める女性のためにチョベ県庁が開いた料理のワークショップにも参加して交流を深めた。



事業で困っている
ところはありますか?

最初の活動として起業家の住民に直近1か月の売り上げや、一日の来客数などをヒアリングして具体的な課題と解決策を探っていた。



JICA海外協力隊 がゆく Vol. 29

家計簿を広めることで
個人起業家のお金の管理に関する
課題解決を目指した隊員を紹介します。

構成 ● 坪根育美

in ボツワナ 金田 裕介

かねだ・ゆうすけ
出身地: 愛知県 職種: コミュニティ開発
任期: 2019年7月~2021年3月



首都: ハボローネ
ボツワナ

現地の方たちとの
コミュニケーションを
大切にして活動しました!



ボツワナの
民族衣装を
着た金田さん。

小学生の頃に観たテレビ番組で、フィリピンのある地域に住む同年代の少女の存在を知り、国際協力に関心を持つようになりました。ごみ山のような劣悪な環境で生活している人や、貧困が理由で学校へ通えない子どもが世界のどこかにいる事実を衝撃を受けたのです。大学では開発学を専攻し、JICA

海外協力隊を事例とした「国際協力ボランティアの自己成長」をテーマに卒業論文を書きました。その際に当時の現役隊員の方たちなどから直接話を聞き、自分も活動してみたいと思いました。配属先となったボツワナのチョベ県庁の地域社会開発課では、美容室・パン屋・大工などの10以上もあるさまざまな業種の小規模ビジネスを行う個人起業家の支援をしています。私にはそうした個人起業家に対する収益の向上や、マネジメントとマーケティングに関する支援が期待されていました。

まず実際の生活環境や状況を知るために、チョベ県庁があるカサネの町やその周辺の村に住む起業家の家を訪ねて話を聞きました。その結果、多くの個人起業家が、日々の収入と支出について十分に把握できておらず、つねに資金難に悩んでいるということがわかりました。そこで配属先のスタッフとともに、職種に関係なくすべての人が共通して無理なく取り組める家計簿の普及活動を行うことにしました。家計簿でお金を管理することで無駄な支出を減らし、貯金ができるようにしようと考えたのです。私はモデルケースづくりのために協力的な起業家の住民に自作の家計簿を配布し、1週間ごとにモニタリングを実施しました。

すると、買い物のレシートを捨てずに取っておく習慣が付き、出費を抑える意識が芽生え始めるといった変化を短期間で感じることができました。新型コロナウイルスの影響で約半年ほどしか滞在できず、成果が出るどころまで見届けられなかったのですが、日本に帰国した今は、ボツワナの人々が自分にしてきたように、日本にいる海外の人たちを温かく迎え入れることも自分ができる国際協力のひとつではないかと感じています。